

四年下	単元	氏名	年組番
慣用語		3問	

慣用語について

慣用語とは、昔から、生活の中で使いならされていた言葉です。
例えば、

「火花を散らす」

という慣用語があります。実さいには火花は散っていませんが、「たがいはげしく争う」という意味で使われています。
慣用語は、いくつかの言葉が組み合わせって、新しい意味をもつようになった決まり文句で、次のようになか間に分けることができます。

体と心：頭をひねる・心がおどる
 動物：借りてきたねこ・虫の知らせ
 植物：うり二つ・実を結ぶ
 かたかな：エンジンがかかる・メスを入れる



慣用語は、国語辞典で調べることができます。調べてみましょう。

慣用語（

<分類> 体と心 動物 植物 かたかな その他	<意味>	<使い方>
--	------	-------

)

四年下	単元	氏名	年組番
慣用句			
			8問

1 次の には、後ろの の中の慣用句のうち、どれが入るでしょうか。意味を調べて、当てはめましょう。

(1) ぼくは、きそく正しい生活をしようとして、だらだらとした生活に 。

(2) あまりにもいそがしいので、 。

(3) 大事な話だったので、 。

(4) 話の内容が、 分かる。

- ピリオドを打った
- 手に取るように
- ねこの手も借りたい
- えりを正した

2 次の慣用句の意味に合うものに○をつけましょう。

(1) 顔が広い。
 よく知られている。
 もの知りだ。
 顔が目立つ。

(2) 雲をつかむ。
 意味がないことをする。
 はっきりしないでつかみどころがない。
 からっぽだ。

(3) 二の足をふむ。
 二回足ぶみをする。
 人の足をふんでしまう。
 気が進まず、ぐずぐずする。

(4) 朝めし前。
 朝ごはんを食べる前。
 かんたんにできること。
 時間がかかりすぎること。

四年下	単元	氏名	年組番
慣用句			
			7問

1 次の慣用句の意味を調べて、短い文をつくりましょう。

〈例〉おねを打つ

彼の勇気ある行いは、人びとのおねを打った。

(1) 足が出る。

〈意味〉

〈文〉

(2) 三日ぼうず

〈意味〉

〈文〉

2 () に生きものの名前を入れて、慣用句を完成させましょう。

(1) () のなみだほどのお金。

(2) () のなくような声。

(3) 先生の () () の一声で、会場はしずまった。